

A. 主な動き

1. 内政

- ・4日、憲法裁判所は、議会において1召集期間内に採択されなかった法案は無効となるとする議会規則の変更は違憲である旨の判断を発表。
- ・4日、ドドン社会党党首は、次期議会選挙に向けた同党のモルドバ発展計画案を発表し、連邦化による沿ドニエストル紛争解決等を提案。
- ・7日、レニツェ共産党議員は、ヴォローニン同党党首は信頼を失ったとし退任すべきである旨発言。

2. 外交

▼フィラト首相のアルメニア訪問

- ・1日、フィラト首相は、アルメニアを訪問し、セルジ・サルグシヤン大統領との会談において両国貿易・経済関係の活性化の必要性を強調。双方は、ブドウ栽培及びワイン醸造専門家間の経験の交換の必要性を確認し、両国共同企業の創設への関心を表明。
- ・1日、フィラト首相は、チグラン・サルグシヤン首相と会談し、経済問題に関する両国政府間委員会の活動、農業、工業及び人文・文化分野における関係発展の必要性に関し意見交換。

▼コモロフスキ・ポーランド大統領の来訪

- ・3日、ティモフティ大統領は、来訪したコモロフスキ・ポーランド大統領との会談において、モルドバの国内改革実施及び今夏の干ばつ等でのポーランドの支援に対し謝意を表明し、両国政治対話の活性化に関し協議。コモロフスキ大統領は、モルドバの欧州統合路線の支持を表明。両大統領は、経済、文化、教育及び科学分野における両国協力計画の署名式及びモルドバ・ポーランド・ビジネスフォーラム等に出席。
- ・3日、フィラト首相は、コモロフスキ大統領と会談し、両国関係の発展及び深化の展望に関し協議。コモロフスキ大統領は、モルドバの改革実施状況を高く評価し、モルドバをEU内に位置づけている旨発言。
- ・3日、ルプ議会議長は、コモロフスキ大統領と会談し、モルドバ・EU連合協定署名におけるポーランドの支持に期待する旨発言。コモロフスキ大統領は、法制度の整備等、両国貿易・経済関係における議会の役割の重要性を指摘。

▼ルプ議会議長のベルギー訪問

- ・4日、ルプ議会議長は、ベルギーを訪問し、デ・ベテュン上院議長及びフラオ下院議長と会談。デ・ベテュン議長は、両国議会間関係の強化・拡大の必要性を強調し、フラオ議長

は、両国経済関係発展の重要性を指摘。双方は、モルドバ・EU関係及びEUモルドバの欧州統合等に関し協議。

- ・4日、ルプ議長(民主党党首)とスヴォボーダ欧州議会社会民主進歩同盟グループ代表は、モルドバの欧州統合に向けたモルドバ民主党と欧州議会社会民主進歩同盟グループとの間の協力協定に署名。

▼フィラト首相のCIS首脳会合出席

- ・5日、フィラト首相は、トルクメニスタンを訪問し、ベルディムハメドフ大統領と会談。双方は、経済及び農業分野における両国協力の活性化の必要性があるとし経済協力に関する両国政府間委員会の創設の可能性に関し協議。また、同日、フィラト首相は、プーチン露大統領と会談し、両国間のエネルギー問題に関し協議。
- ・5日、フィラト首相は、アシガバットで開催されたCIS首脳会合に出席。会合参加者は、貿易・経済、人文、エネルギー安全保障及び環境保護分野におけるCIS諸国の協力に関し協議。

▼レアンカ副首相兼外務・欧州統合相のOSCE外相理事会出席

- ・6日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、ダブリンにて開催された第19回OSCE外相理事会に出席し、沿ドニエストル紛争解決における仲介者及びオブザーバーの役割の重要性、技術的問題から大局的問題への移行及びモルドバ国内に駐留するロシア軍の撤退の必要性等に関し発言。

▼その他

- ・7日、ルプ議会議長は、6日に米上院がモルドバとの貿易を制限する米国通商法ジャクソン・バニク修正条項の撤廃に関する法律を採択したことを歓迎し、両国自由貿易協定交渉の開始を早めるであろう旨発言。

3. 沿ドニエストル

- ・6日、ブルラ沿ドニエストル「最高会議」議長は、モルドバとEU間のFTA創設は沿ドニエストルの経済に悪影響を及ぼすとし交渉の進展に懸念を表明。
- ・7日、OSCEは、ダブリンでの外相理事会において、「5+2」者形式での沿ドニエストル紛争解決プロセスに関する交渉の成果を評価し、その継続を歓迎する声明を採択。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)